

2023年度 シラバス (講義要綱)

2023年度入学生
総合政策学部



卒業必要単位数（総合政策学部）

【2023年度入学生】

区 分				卒業必要単位数				
全学共通科目	共通基礎科目			必修	14単位	留学生は日本語で4単位	必修20単位を含めて58単位以上	合計130単位以上
	共通教養科目	語学選択科目		選択	4単位以上	留学生は日本語で4単位以上		
		一般教養科目	社会科学系列	選択	4単位以上			
			人文科学系列	選択	4単位以上			
			自然科学系列	選択	4単位以上			
	共通応用科目	キャリア必修科目		必修	6単位			
		キャリアスキル科目	キャリア選択科目	選択	いずれかのユニットを選択し、選択したユニットからの10単位以上を含めて、14単位以上			
			各ユニット	選択				
特別科目		選択						
学部専門科目	学部基礎科目			必修	8単位		必修20単位を含めて72単位以上	
	演習科目			必修	12単位			
	専攻間共通科目			選択	6単位以上			
	公共政策専攻			専攻必修	いずれかの専攻を選択し、選択した専攻必修6単位を含めて、30単位以上修得すること。さらに、専攻外(他専攻・他学部)で4単位以上修得すること。			
	人文社会専攻			選択				
	経営戦略専攻							
	他学部開設科目			選択				

カリキュラム表の見方

区分	基礎や専門、専攻・分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・サブタイトルを記載します。
単位数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
年 次	科目が開講されている学年・学期を記載します。 ○ ……半期週1回開講 ◎ ……半期週2回開講 集 ……集中講義 ▲ ……その他の開講 ……不開講科目
講師区分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼 ……他学部所属教員 非 ……他大学、他組織所属教員 空白……本学部所属の教員を表します。
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
実務	実務家教員授業科目

区分		2023年度入学生 授業科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	実 務	備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次							
				前	後	前	後	前	後	前	後						
全学共通科目	共通基礎科目	「人間たれ」Ⅰ	②	○									岩崎 恭典	1			
		「人間たれ」Ⅱ	②		○								岩崎 恭典 浅井 雅	2			
		兼 青木 陽子															
		四日市学	②			○											
		基礎コンピュータⅠ	②	○									倉田 英司 青木 陽子 池田 幹男	3			
		兼 石田 修二 杉谷 克芳															
		基礎コンピュータⅡ	②		○								倉田 英司 青木 陽子 池田 幹男	4			
		兼 石田 修二 杉谷 克芳															
		基礎英語Ⅰ	②	○									ゴードン リース 青木 陽子 ケント スコット	5			
		兼 柴田 啓文															
		基礎英語Ⅱ	②		○								ゴードン リース 青木 陽子 ケント スコット	6			
		兼 柴田 啓文															
		基礎日本語Ⅰ	②	◎									伊藤 晴苗 角田 延之 安田 由紀子	7		留学生科目	
		兼 伊藤 晴苗 角田 延之															
		基礎日本語Ⅱ	②		◎								伊藤 晴苗 角田 延之 安田 由紀子	8		留学生科目	
		兼 安田 由紀子															
	語学選択科目	英語コミュニケーションⅠ	2			○											
		英語コミュニケーションⅡ	2				○										
		中国語Ⅰ	2			○											
		中国語Ⅱ	2				○										
		ポルトガル語Ⅰ	2			○											
		ポルトガル語Ⅱ	2				○										
		海外語学研修a(英語)	2		▲												
		海外語学研修b(中国語)	2	▲													
		日本語中級Ⅰ	2			○										留学生科目	
		日本語中級Ⅱ	2				○									留学生科目	
		共通教養科目	社会科学系	政治学概論	2	○								吉川 和挟	9		
				経済学概論	2		○							兼 鬼頭 浩文	10		
				社会学概論	2	○								三田 泰雅	11		
				社会福祉概論	2	○								非 李 修二	12		
				日本国憲法概論	2	○								中西 紀夫	13		
				民法概論	2		○							非 土志田 佳枝	14	○	
			人文科学系	哲学概論	2	○								フェリペ フェハーリ	15		
				文学概論	2	○								永井 博	16		
				歴史学概論	2	○								浅井 雅	17		
				教育学概論	2		○							非 長谷川 誠	18		
				地理学概論	2		○										
				心理学概論	2		○							兼 田中 伊知郎	19		
			自然科学系	化学概論	2	○								兼 牧田 直子	20		
				地学概論	2	○								非 森 康則	21	○	
	生物学概論			2		○							兼 田中 伊知郎	22		オンデマンド	
	数学概論			2	○								非 金岩 稔	23			
	情報科学概論	2		○								兼 池田 幹男	24		オンデマンド		
	兼 片山 清和																
	データサイエンス概論	2			○							兼 前川 督雄	25				
	兼																

区分			2023年度入学生 授業科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	実 務	備 考
					1年次		2年次		3年次		4年次						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
全学共通科目	キャリア必修	キャリア基礎a	②	○	○								高田 晴美	26		オンデマンド	
		キャリア基礎b	②				○										
		キャリア基礎c	②					○									
	キャリア選択科目	ビジネスマナー	2				○										
		ビジネスコミュニケーション	2					○									
		インターンシップa	2				▲										
		インターンシップb	2					▲									
		キャリアのための日本語力Ⅰ	2					○								留学生科目	
		キャリアのための日本語力Ⅱ	2						○							留学生科目	
		ビジネス英語a	2	○								兼	樋口 晶子	27			
		ビジネス英語b	2		○							兼	樋口 晶子	28			
	英語力養成ユニット	ビジネス英語c	2				○										
		ビジネス英語d	2					○									
		ビジネス英語e	2						○								
		ビジネス英語アドバンスⅠ	2						○								
		ビジネス英語アドバンスⅡ	2							○							
		英語リーディングⅠ	2						○								
		英語リーディングⅡ	2							○							
	IT基礎力養成ユニット	ITリテラシー	2	○								兼	柳澤 翔士	29	○		
		Webプログラミング1	2		○							兼 兼 兼	池田 幹男 片山 清和 柳澤 翔士	30			
			Webプログラミング2	2				○							○		
			文書表現ツール1	2		○						兼	池田 幹男	31			
		文書表現ツール2	2					○									
		データ操作ツール1	2				○										
		データ操作ツール2	2						○								
		プレゼンテーションツール	2							○							
		公務員養成ユニット	公務のための判断推理	2	○									高田 晴美	32		
			公務のための数的推理	2		○								高田 晴美	33		
	公務のための政治学		2		○								小林 慶太郎	34			
	公務のための経済学		2				○										
	公務のための法学		2				○										
	公務のための人文科学		2					○									
	公務のための自然科学		2						○								
	公務のための現代文・資料解釈		2							○							
	公務のための英文理解		2								○						
	公務のための論文・面接		2								○						
	社会調査士養成ユニット	社会調査入門	2	○									三田 泰雅	35			
		社会調査の技法	2		○								三田 泰雅	36			
		統計学入門	2		○							兼	田中 伊知郎	37		オンデマンド	
		社会統計学	2				○										
		フィールドワーク論	2				○										
		データ解析の技法	2					○									
		社会調査実習1	2						○								
		社会調査実習2	2							○							
	スポーツライセンスユニット	スポーツ指導論	2	○									若山 裕晃	38			
		スポーツトレーニング論	2	○									若山 裕晃	39			
		アスリート育成論	2		○								若山 裕晃	40		オンデマンド	
		スポーツ心理学	2		○								若山 裕晃	41			
		スポーツ生理学	2				○										
		スポーツ応用科学	2				○										
		スポーツメディカル論	2					○									
		スポーツ栄養学	2					○									
		地域スポーツ論	2						○								
		スポーツ政策論	2							○							
特別科目	特別科目	全学共通特別講義a	2		▲							倉田 英司	42	○			
		全学共通特別講義b	2	▲													
		全学共通特別講義c	2	▲													
		全学共通特別講義d	2	▲													
		全学共通特別講義e	2	▲													
		ボランティア活動a	2	▲								倉田 英司	43				
		ボランティア活動b	2	▲								倉田 英司	44				
		国際協力研修	2		▲							岩崎 祐子	45				
		海外環境研修	2		▲												
		他大学開放科目a	2	▲													
		他大学開放科目b	2				▲										
		他大学開放科目c	2				▲										
		他大学開放科目d	2				▲										
		他大学開放科目e	2				▲										

区分			2023年度入学生 授業科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	実 務	備 考
					1年次		2年次		3年次		4年次						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
学部専門科目	人文社会専攻	専攻必修	現代社会論	2		○							富田 与 三田 泰雅	61			
			社会史	2			○										
			表象文化論	2		○							高田 晴美 富田 与 永井 博 三田 泰雅	62			
		国際社会	文化人類学	2			○										
			現代文化論	2			○										
			グローバルイシューズ	2				○									
			比較文化論	2				○									
			国際社会学	2						○							
			文化表現論	2					○								
		歴史と社会	地域社会学	2			○										
			文化史	2				○									
			日本文化論	2				○									
			環境社会学	2						○							
			都市祭礼論	2			○										
			ツーリズム論	2						○							
		交流と創発	スポーツ文化論	2			○										
			コミュニケーション論	2			○										
			生涯スポーツ論	2						○							
	リーダーシップ論		2					○									
	サブカルチャー論		2				○										
	健康スポーツ実技		2				○										
	経営戦略専攻	必修	経営学入門	2		○							川崎 綾子	63			
			経営戦略論	2			○										
			簿記入門	2		○											
		組織管理	経営管理論	2		○							奥原 貴士 川崎 綾子	64 65			
			経営組織論	2			○										
			アントレプレナーシップ論	2			○										
			企業論	2				○									
			経営ケーススタディ	2					○								
			マーケティング論	2				○									
		市場戦略	多国籍企業論	2				○									
			新興市場論	2				○									
			流通論	2				○									
			農業経営論	2				○									
			メディア情報産業論	2						○							
			マーケティング実践論	2						○							
		会計ファイ	会計学総論	2		○							奥原 貴士	66			
			金融論	2			○										
			財務諸表論	2				○									
			管理会計論	2					○								
			経営分析論	2						○							
			商業簿記	2			○										
	他学部開設科目	他学部開設科目a	2	▲													
		他学部開設科目b	2	▲													
		他学部開設科目c	2	▲													
他学部開設科目d		2	▲														
他学部開設科目e		2	▲														

シラバスの見方

例

授業科目名	社会学概論			科目コード	181203	授業コード	100221
担当教員	三 田 泰 雅			科目ナンバリング	GELA1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選択
授業の位置づけ	大学生として身につけるべき教養を主に修得する						
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作 っています。一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社 会を作り、そして社会に作られているのか。この両面を明らかにすることで社会の仕組みを考えてゆく授業です。						
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を身につける						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 自分とは何だろうか 第4講 スポーツから近代社会を考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族とは何だろうか 第7講 ジェンダーのはたらき 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す						
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とミニツツペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニツツペーパーを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	社会はどんなふうに動いているのか、私たちが生きているこの社会のしくみを一緒に考えてゆきましょう。						

- ・授業科目名：本年度開講の授業科目名です。
 - ・担当教員：授業科目担当者です。
 - ・科目コード：カリキュラム内の科目ナンバーです。
 - ・授業コード：時間割順を示すナンバーです。
 - ・科目ナンバリング：後掲の科目ナンバリングを参照のこと。
 - ・配当年次：学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています。
 - ・開講学期：授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
 - ・単位数：単位数を表記しています。
 - ・必修/選択：「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。各自のカリキュラム表で確認してください。
 - ・授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（D P）と当該授業科目の関連が記載されています。
 - ・授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
 - ・到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。
 - ・授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
 - ・テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには、授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
 - ・事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「○○○Ⅰ」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
 - ・成績 評価方法：定期試験 60 %、小テスト 40 %のように、評価（ポイント）基準を明記しています。
- 授業内の課題・提出方法、フィードバック方法：授業内で課される課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
- ・担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載されています。

授業科目名	「人間たれ」Ⅰ			科目コード	181001	授業コード	125101
担当教員	岩崎 恭典			科目ナンバリング	GEFC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	1. 本学の建学の精神を理解する。 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、満75周年を迎えた学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和・平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。 3. 各分野の専攻やスキル科目、地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。						
授業計画	第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。 第1講 ガイダンス 君たちが大学で学ぶべきこと 第2講 18歳成人に伴う社会的責任について 第3講 地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること 第4講 交通安全・車の免許取得に際して考慮すべきこと(JAF) 第5講 先輩に学ぶ 本学卒業生のインタビュー動画をみる 第6講 先輩に学ぶ 本学ベトナムからの留学生のインタビュー動画をみる 第7講 先輩に学ぶ 本学ネパールからの留学生のインタビュー動画をみる 第8講 先輩に学ぶ 他大学の長期インターンシップ学生のインタビュー動画をみる 第9講 外国で働くということ(オイスカ) 第10講 本学の海外研修について 第11講 日本の財政状況と税金、家計、金融知識(財務省津財務事務所) 第12講 人生の先輩に聴く① 四日市北ロータリークラブ会長 第13講 人生の先輩に聴く② 本学社会人OB 第14講 前学期のまとめ 建学の精神について 第15講 夏休みを前に 産婦人科医は語る 定期試験						
テキスト・教材(参考文献含む)	できるだけレジメと資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください(1日30分以上)。						
成績評価方法	出席することを基本として、時折実施する小テスト(50%)、定期試験の成績(50%)により評価する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回提出してもらう小レポートは時間内に解答できるものとする予定である。回答時間がない場合には、翌週までにレポートボックスまで提出してもらう。また、感想・岩崎あるいは大学に対する質問・意見等については、「大福帳」の往復によって意思疎通を図るものとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、「大福帳」、前学期試験答案については、個人別にまとめたうえで、後学期の一年生演習授業の担当者を通じて返却するものとする。なお、再履修のものは、希望すれば小生との面談のうえ、返却を求めることができる。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	「人間たれ」Ⅱ			科目コード	181002	授業コード	125501
担当教員	岩崎 恭典、青木 陽子、浅井 雅			科目ナンバリング	GEFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部 of 全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	1. 本学の建学の精神を理解する。 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、満75周年を迎えた学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和・平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。 3. 各分野の専攻やスキル科目、地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。						
授業計画	第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。 第1講 ガイダンス 「人間たれⅠ」の振り返り、ⅠとⅡの違いについて 第2講 UD(ユニバーサルデザイン)について ① (NPO法人UDほっとねっと伊藤さん) 第3講 UD(ユニバーサルデザイン)について ② (NPO法人UDほっとねっと石山さん) 第4講 本学の建学の精神について 第5講 暁学園・四日市大学の歴史 昭和時代の暁学園 第6講 暁学園・四日市大学の歴史 平成時代・令和の四日市大学 第7講 本学の建学の精神と君たちの将来 人口減少社会 第8講 本学の建学の精神と君たちの将来 シンギュラリティ、Society5.0 第9講 人口減少社会を生きる力 第10講 PBLとは何か-祭りや鉄道を素材として 第11講 環境問題と総合政策-ゴミ問題をテーマとして 第12講 新任教員は語る① 何をどう勉強してきたか 第13講 新任教員は語る② 何をどう勉強してきたか 第14講 新任教員は語る③ 何をどう勉強してきたか 第15講 一年間の総まとめ 改めて「建学の精神」について 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	できるだけレジメと資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。						
成績評価方法	出席することを基本として、時折実施する小テスト（50%）、定期試験の成績（50%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回提出してもらう小レポートは時間内に解答できるものとする予定である。回答時間がない場合には、翌週までにレポートボックスまで提出してもらう。また、感想・岩崎あるいは大学に対する質問・意見等については、「大福帳」の往復によって意思疎通を図るものとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、「大福帳」、後学期試験答案については、個人別にまとめたうえで、後学期の二年生演習授業の担当者を通じて返却するものとする。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	基礎コンピュータ I			科目コード	181004	授業コード	122303
担当教員	池田 幹男			科目ナンバリング	GEFC1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	現代は情報化社会であり、ネットの利用が前提となっています。このようなネット社会で情報発信を安全に行い、情報受信を行い、情報を適切に活用するために留意しなければならない事があります。この講義では事例を通してどのような事に注意する必要があるかを学びます。またこの講義では情報発信の基盤として、Wordを用いて文章を作成したり、PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作成したりできるようになるための実習も行います。						
到達目標	① ネット社会で情報を安全に利活用する上での決まりを理解する ② Wordを用いて文章を作成できる ③ PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作る						
授業計画	第1講 ガイダンスとクラス分け、タッチタイピング入門、情報モラルチェックと情報セキュリティチェック 第2講 メールによるコミュニケーション 第3講 Word 起動と終了、文字の入力 第4講 文書の入力と編集と保存 第5講 表の挿入と編集 第6講 アイコン、3Dモデルの挿入 第7講 画像・テキストボックスの挿入 第8講 ワードアートとスクリーンショット 第9講 情報モラルと情報セキュリティ 第10講 個人情報の適切な取り扱い、デジタル時代の著作権 第11講 ネット社会に潜む危険と対策 第12講 Webによるコミュニケーション、モバイル機器の活用と管理 第13講 PowerPoint 起動と終了、プレゼンテーションの作成 第14講 PowerPoint オブジェクトの挿入とスライドショー 第15講 タイピングテスト						
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト>「情報リテラシー」（Windows 11, Office 2021対応）FOM出版 2200円（税込） <参考文献>「30時間でマスターWord&Excel 2021」実教出版 1100円（税込）						
事前・事後学習	<事前学習> 第2講、第9講～第12講の前では授業で予定している部分のテキストを読んで問題を解いたり、理由などを調べたりする。第3講～第8講、第13講～第14講の前ではテキストや配布資料を読んで実習内容を理解する。（30分） <事後学習> 課題を完成させる。（150分）						
成績評価方法	実習の提出物（70%）とタイピングテスト(30%) の合計で評価します。定期試験は行いません。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> Moodleを通して個別にコメントします。						
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかりと行ってください。						

授業科目名	基礎コンピュータⅡ			科目コード	181005	授業コード	122703
担当教員	池田 幹男			科目ナンバリング	GEFC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	文書作成、表・グラフ作成、データ分析、プレゼンテーションを行うことは、在学中だけでなく社会に出てからもよくあります。この講義では、文書作成ツール、表計算ツール、プレゼンテーション作成ツールとしてWord、Excel、PowerPointの実習を行います。実習は、与えられたデータを編集・加工することで課題を完成させるもので、主体的に学び、わからないところを教員に聞いて解決する形でいきます。						
到達目標	① Wordを用いてレポートや論文を作成できる ② Excelを用いて表やグラフを作成できる ③ Excelを用いてデータ分析のためにデータ抽出やクロス集計ができる ④ PowerPointを用いて効果的な視覚資料を作れ、プレゼンテーションの準備ができる						
授業計画	第1講 ガイダンス、Word (1) 第2講 Word (2) 第3講 Word (3) 第4講 Word演習問題 (1) 第5講 Excel (1) 第6講 Excel (2) 第7講 Excel (3) 第8講 Excel (4) 第9講 Excel (5) 第10講 Excel (6) 第11講 Excel 演習問題 第12講 PowerPoint (1) 第13講 PowerPoint (2) 第14講 PowerPoint (3) 第15講 PowerPoint 演習問題						
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト>「情報リテラシー」（Windows 11, Office 2021対応）FOM出版 2200円（税込） <参考文献>「30時間でマスターWord&Excel 2021」実教出版 1100円（税込）						
事前・事後学習	<事前学習> テキストを読んで実習内容を理解する。（30分） <事後学習> 課題を完成させる。（150分）						
成績評価方法	実習の提出物（70%）とタイピングテスト（30%）の合計で評価します。定期試験行いません。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> Moodleを通して個別にコメントします。						
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかりと行ってください。						

授業科目名	基礎英語 I			科目コード	181006	授業コード	123101
担当教員	ゴードン リース			科目ナンバリング	GEFC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	英語力を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当者が異なります。各講座によります。（下記は例） 第1講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2講義 U nit 2 以下 第15講義まで同じ展開						
テキスト・教材（参考文献含む）	それぞれの担当者がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	担当者の指示に従って下さい。						
成績評価方法	担当者のガイダンス等を参考にして下さい。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従って下さい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従って下さい。						
担当者から一言	高等学校までの英語学習とは違った、興味深い教材や授業展開に刺激を受け、全く新しい英語学習を始めましょう。						

授業科目名	基礎英語Ⅱ			科目コード	181007	授業コード	123501
担当教員	ゴードン リース			科目ナンバリング	GEFC1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	英語力を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通して、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上に英語学習を通して貢献することを目指しています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当者が異なります。各講座によります。（下記は例） 第1講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2講義 Unit 2 以下 第15講義まで同じ展開						
テキスト・教材（参考文献含む）	それぞれの担当者がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	担当者の指示に従って下さい。						
成績評価方法	担当者のガイダンス等を参考にして下さい。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従って下さい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従って下さい。						
担当者から一言	世界の共通言語である英語の総合的な力（聴く、話す、読む、書く）を高めるため、大学から新たな英語学習を始める、という気持ちで受講して下さい。						

授業科目名	基礎日本語 I			科目コード	181008	授業コード	123107
担当教員	安田 由紀子			科目ナンバリング	GEFC9001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス レポート作成の基礎、読解、語彙① 第2講 レポート作成、読解、語彙② 第3講 レポート作成、読解、語彙③ 第4講 レポート作成、読解、語彙④ 第5講 能力試験対策模擬試験①、② 第6講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第13講 レポート作成、読解、語彙⑤ 第14講 レポート作成、読解、語彙⑥ 第15講 レポート作成、読解、語彙⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』" 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	N1までの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	基礎日本語Ⅱ			科目コード	181009	授業コード	123507
担当教員	安田 由紀子			科目ナンバリング	GEFC9002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に「聞く・話す」に焦点を当てて強化をはかります。聞いたことを理解するにとどまらず、相手の言いたいことをはかり、それを受けて返事をしたり行動したりする能力を身につけることがねらいです。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では、「聞く・話す」ことより相手の伝えたいことをくみ取り、どんな場合にでも対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。						
授業計画	第1講 合同ガイダンス（クラス分け日本語テストも含む） 第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習① 第3講 能力試験対策模擬試験①、② 第4講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第5講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③ 第12講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④ 第13講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤ 第14講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥ 第15講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』" 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	N1向まで問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	政治学概論			科目コード	181201	授業コード	122201
担当教員	吉川 和挟			科目ナンバリング	GELA1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	この授業では政治制度や政府の役割について扱い、政治関連科目受講のための基礎知識を獲得することを目的とします。 誰もが「政治」という言葉を知っており、当たり前のように使っています。それほど私たちの生活と政治は不可分に結びついたものとなっていますが、一方で政治を身近に感じるという人は残念ながらあまり多くないでしょう。 この講義では、可能な限り身近な例を参照しつつ、日ごろ目にする政治ニュースに少しでも関心を抱き、自分事として考えてもらうための手助けを行います。						
到達目標	・主に日本の政治制度についての基本的用語や知識を理解し、他の政治系科目を履修するための基礎知識を獲得する ・一人の市民として、各種媒体の政治ニュースについて理解できるようになる						
授業計画	01. ガイダンス/政治学とは 02. 政治のとらえ方 03. 国家という枠組み 04. 政治体制 05. 選挙と投票 06. 政党と政党システム 07. 政権とアカウンタビリティ 08. 執政・立法・司法 09. 政策過程と官僚制・利益団体 10. 連邦制と地方制度 11. 安全保障と平和 12. 国際政治経済 13. 国際社会と集団・個人 14. シティズンシップ 15. デモクラシー 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・砂川庸介、稗田健志、多湖淳「政治学の第一歩〔新版〕」有斐閣（2020） ・田村哲樹、松元雅和、乙部延剛、山崎望「ここから始める政治理論」有斐閣（2017）						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：50% ・定期テスト（自筆ノートのみ持ち込み可）：50%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
担当者から一言	他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じることがあります。						

授業科目名	経済学概論			科目コード	181202	授業コード	122801
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	GELA1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力 向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	ここでは、経済学の基礎的思考方を学ぶため、映像による事例を紹介し、その背後にある経済の仕組みや動きについて説明していく。受講生には、映像や解説の内容をノートテイクするためのレジュメを配布する。映像や解説をメモしながら授業が進み、授業終了直後に完成したレジュメをスマホで撮影しMoodleに提出する。遅刻したり、他ごとをしていた部分は確実に減点されるので、90分の講義に集中しなければならない。また、できるだけ教室の中を動き、学生からの発言を求め、時にはディスカッションの時間を設ける。						
到達目標	経済学の基本的知識を映像から体感し、経済社会の背後にある仕組みを理解して将来の仕事や生活に役立つ知識を身に着けることが到達目標である。						
授業計画	1：ガイダンス、感染症が経済に与えた影響から経済の仕組みを学ぶ 2：コロナ禍で地域の金融機関が果たした事例から経済を知る 3：金融制度の表側と裏側を知る 4：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み① 5：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み② 6：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み① 7：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み② 8：日本経済における「働き方」の変化 9：文化・スポーツなどの経済活動 10：税の仕組みを知る（四日市市税務署） 11：企業経営の事例から経済を学ぶ① 12：企業経営の事例から経済を学ぶ② 13：インバウンド・外国人と日本経済 14：経済のいまを映像で知る 15：復習とレポート試験の説明						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。						
成績評価方法	毎回Moodleに提出するレポート(75%)、対面・持ち込み不可で実施する学期末試験(25%)により、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	毎回レジュメにノートを取り、写真に撮影してMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle上で課題に対するフィードバックを行う。						
担当者から一言	社会に出て役立つ経済の知識を獲得できる講義を目指す。						

授業科目名	社会学概論			科目コード	181203	授業コード	121301
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GELA1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作っています。一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会を作り、そして社会に作られているのか。この両面を明らかにすることで社会の仕組みを考えてゆく授業です。						
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を身につける						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 自分とは何だろうか 第4講 スポーツから近代社会を考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族とは何だろうか 第7講 ジェンダーのはたらき 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す						
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とミニツツペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニツツペーパーを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	社会はどんなふうに進んでいるのか、私たちが生きているこの社会のしくみを一緒に考えてゆきましょう。						

授業科目名	社会福祉概論			科目コード	181204	授業コード	121201
担当教員	李 修二			科目ナンバリング	GELA1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	社会福祉とは、現代社会を生きる人々にとって無くてはならない事柄の一つと言えます。そうした社会福祉の理念や考え方を学び、さらに社会福祉の歴史、対象、制度について基本的な理解を得ることをねらいとした授業となります。授業の後半では、より具体的に、社会福祉の主要な分野での現状と今後の課題についても掘り下げて学ぶことをねらいとします。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉についての正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	1. ガイダンス、社会福祉の理念 2. 社会福祉の歴史 イギリス(1) 3. 社会福祉の歴史 イギリス(2) 4. 社会福祉の歴史 イギリス(3)<映画教材視聴> 5. 社会福祉の歴史 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本 6. 少子化・高齢化をめぐる日本と世界(1) 7. 少子化・高齢化をめぐる日本と世界(2) 8. 日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(1) 9. 日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(2) 10. 資本主義経済の歴史的変化と福祉国家 11. これからの社会保障(1) 12. これからの社会保障(2) 13. 医療への新たな視点(1) 15. 医療への新たな視点(2) 15. 持続可能な福祉社会に向けて 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。 参考文献： 武川正吾『福祉社会（新版）』2011年、有斐閣 広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年、東洋経済						
事前・事後学習	毎回の授業後、復習課題の小レポートを書いてもらい、次の授業回までに提出してもらいます。また、必ず前回分の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。（復習、45分以上） さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイトなどでの社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習、45分以上）						
成績評価方法	毎授業ごとの小レポート課題で30%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で70%評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題の小レポートは、Moodleを通じて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の小レポートの評価基準はガイダンス時に説明します。また小レポートやその他の質問等には、Moodleを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。						
担当者から一言	社会福祉の考え方や知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。意味や意義を少しでも深く理解するように学んでください。						

授業科目名	日本国憲法概論			科目コード	181205	授業コード	122202
担当教員	中西 紀夫			科目ナンバリング	GELA1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っています。						
到達目標	大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 憲法の機能 第3講 天皇と国民の関係 第4講 国民の三大義務 第5講 基本的人権とその種類 第6講 環境権（判例的考察） 第7講 憲法上の権利と義務 第8講 法の下での平等 第9講 絶対平和主義 第10講 国家機密と国民の知る権利 第11講 平等な投票にするための権利義務 第12講 行政救済 第13講 国際私法 第14講 憲法改正問題 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	民法概論		科目コード	181206	授業コード	123801
担当教員	土志田 佳枝		科目ナンバリング	GELA1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	この講義は、実際に新聞やテレビなどで報道された事件や問題、身近な紛争（トラブル）を取り上げ、解決方法を考察しながら、民法の全体像を理解していくことを目的とします。新聞を下宿で購読していなくとも、テレビを持っていなくとも、今ではインターネットやSNSを通じて世界中のニュースを日本語で読めるようになりました。普段から、パソコンや携帯電話のアプリを通じて、様々な話題に興味を持って接してください。					
到達目標	新聞やテレビの報道で接した事件や問題、紛争を解決するために、民法からどのような妥当な結論を引き出せるだろうか考え、さらに解決方法を自らの筆で文章にまとめることを到達目標としたいと思います。したがって、授業には筆記用具を持参してください。なお、法令についてはオンラインで最新の条文に触れるようにしてください（e-gov法令検索「民法」「民事訴訟法」「家事事件手続法」「法の適用に関する通則法」など）。					
授業計画	予習には教科書の指示した範囲を通読します。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります。 1民法と民法典（予習90分：第1章）（復習90分） 2権利と義務（予習90分：第2章の1）（復習90分） 3契約1債権・債務（予習90分：第2章の2）（復習90分） 4契約2未成年（予習90分：第3章）（復習90分） 5後見（予習90分：第4章）（復習90分） 6所有権と占有（予習90分：第5章）（復習90分） 7時効（予習90分：第6章1消滅時効）（復習90分） 8不法行為と不当利得（予習90分：第6章2法定利率）（復習90分） 9事務管理（予習90分：第6章3約款）（復習90分） 10婚姻（予習90分：第6章4サービス契約）（復習90分） 11離婚（予習90分：第6章5自然災害と契約法）（復習90分） 12親子関係（予習90分：第7章）（復習90分） 13養子縁組（予習90分：おわりに）（復習90分） 14相続（予習90分：相続法改正資料）（復習90分） 15講義のまとめ（予習90分：これまでの復習）（復習90分）					
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献： 内田貴『民法改正—契約のルールが百年ぶりに変わる』（筑摩書店・2011）ISBN 978-448006634 参考文献は新書と電子書籍で入手可能ですが、必ずしも購入の必要はありません。グローバル化の影響は皆さんの学ぶ民法にも及んでいます。近年の法改正にあわせて、わかりやすい本が次々出版されています。ぜひ図書館で手に取ってみてください（大学図書館の図書を探す https://ci.nii.ac.jp/books/）。					
事前・事後学習	予習には教科書の指示した範囲を通読します（90分）。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります（90分）。詳細は授業計画を参照してください。					
成績評価方法	定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。					
授業内の課題・提出方法	課題は教室で受け取る予定です。提出日や書式などについては教室で案内します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。					
担当者から一言	講義の内容に関する質問は、教室で受け付けています。そのほか、授業時間外学習を支援する目的で、不明な点があれば授業時間外でも回答ができるよう、メール等の手段により質問を受け付ける予定です。					

授業科目名	哲学概論			科目コード	181301	授業コード	123401
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	GELH1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学（philosophia）の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。 また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。						
到達目標	現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。						
授業計画	第1講 ガイダンス・「哲学」とは何か 第2講 哲学の起源 第3講 哲学の三つの伝統 第4講 西洋と東洋 第5講 無知の知 第6講 洞窟の比喻 第7講 現実とは何か 第8講 ファルサファ 第9講 中世哲学 第10講 理性主義 第11講 近代哲学 第12講 超越とは何か 第13講 懐疑的解釈学 第14講 現代哲学 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
担当者から一言	本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。						

授業科目名	文学概論			科目コード	181302	授業コード	121401
担当教員	永井 博			科目ナンバリング	GELH1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	この講義では、近代日本、あるいは現代世界の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による、いわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年9月19日のことだった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのだ。そしてロシアのウクライナ侵攻は2022年2月のことだった。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることで平和を構築する道について考えてみたい。						
到達目標	近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想をともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日露戦争概説 第3回 与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」 第4回 陸羯南、主戦七博士の日露戦争主戦論 第5回 トルストイ「汝悔い改めよ」 第6回 幸徳秋水「戦争来」 第7回 内村鑑三の日露戦争非戦論 第8回 前半のまとめと復習（グループワーク） 第9回 ヴェトナム戦争概説 第10回 ボブ・ディラン「風に吹かれて」 第11回 武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」 第12回 日本国憲法第9条 第13回 加藤周一ほか「9条の会」 第14回 核戦争と「文学者の反核声明」 第15回 全体のまとめと復習（グループワーク） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。（90分） また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテキストは、それぞれのテキストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。（90分）						
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ各回の終わりに講義の内容のまとめと、それに関する意見、質問などを簡単に書いて提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニ・レポートは、総評的なコメントとともに点数をつけて翌週に返却する。						
担当者から一言	この講義のテーマは反戦文学・反戦思想であり、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわらず「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。						

授業科目名	歴史学概論		科目コード	181303	授業コード	125301
担当教員	浅井 雅		科目ナンバリング	GELH1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	歴史的事項を文化・思想などを中心として様々な面から捉え、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに、未知なる社会に挑んできた先人たちの知恵を追体験することにより、新たな見方を提供したい。					
到達目標	1. 歴史を様々な側面から見ることで、新たな見識を得、未知なる社会への想像力を育み、視野を広げることができる。 2. 「常識」を疑い、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力を持つことができるようになる。 3. 歴史と文化・思想の繋がりを理解することができる。					
授業計画	1. ガイダンス 2. 時代区分等歴史の基礎知識 3. 考古 4. 古代 (1) 5. 古代 (2) 6. 中世 (1) 7. 中世 (2) 8. 中世 (3) 9. 近世 (1) 10. 近世 (2) 11. 近世 (3) 12. 近世 (4) 13. 近代 (1) 14. 近代 (2) 15. まとめ 期末レポート					
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書等があれば持参のこと。					
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60～90分）					
成績評価方法	毎回の授業後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）					
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。 期末レポートもMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出とのこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。					
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。					

授業科目名	教育学概論			科目コード	181304	授業コード	121601
担当教員	長谷川 誠			科目ナンバリング	GELH1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	教育学概論は、教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題について検討することを目的とします。例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について考えていきます。そして、学校と家庭、地域等、教育を取りまく社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目指します。						
到達目標	教育を取り巻く諸問題を整理し、社会における教育の在り方への興味をより具体的なものとして意識し、議論できることを目指していきます。教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養います。						
授業計画	第1講：教育とは何か 第2講：教育と社会 第3講：学歴社会の成立と変貌 第4講：日本の教育政策の動向-諸外国との比較から- 第5講：教育をめぐる格差問題 第6講：いじめ問題 第7講：不登校の課題と対応 第8講：特別な支援を必要とする子どもへの対応 第9講：懲戒と体罰 第10講：情報社会と教育 第11講：グローバル化と教育 第12講：リスク社会の進展と教育 第13講：若年層就労問題① 第14講：若年層就労問題② 第15講：まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。適宜プリントを配布します。 参考文献：原 清治、山内 乾史（2019）『新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学』ミネルヴァ書房 2, 200円						
事前・事後学習	・教育に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。						
成績評価方法	・課題試験60%（授業で扱った教育課題に対する理解度、教育の在り方に対する自らの興味・関心の明確性・具体性） ・平常点40%（リアクションペーパーの内容についてのコメント、質問の記述の的確性）						
授業内の課題・提出方法	課題：授業内で実施するリアクションペーパー						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週の授業にて適宜コメントします						
担当者から一言	積極的な授業への参加を期待しています。 現代の教育課題について一緒に考えていきましょう。						

授業科目名	心理学概論			科目コード	181306	授業コード	124601
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GELH1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえ情報伝達(教えること)」とはどういうものかを明らかにすることを講義のねらいとします。						
到達目標	生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは、ほとんどありません。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。						
授業計画	第1講 ガイダンス・視覚情報：色彩 色の対処理 第2講 視覚情報・色彩 赤と青を同時に使わない(実習) 第3講 視覚情報・色彩 表現(映像・絵画)における補色の利用 第4講 視覚情報・色彩 色鉛筆で絵を描きます(実習) 第5講 視覚情報・形 両眼視 第6講 視覚情報・形 アフォーダンス 第7講 視覚情報・アフォーダンス 実習1 ポケの効果 第8講 視覚情報・アフォーダンス 実習2 空気遠近を用いた作画(実習) 第9講 実験心理学からみた学習 第10講 個体学習と社会学習の違い 第11講 社会学習における課題 第12講 人類における「教えること」の成立(レポート課題の配布) 第13講 理解できるコミュニケーションの基礎となる同情と共感 第14講 実験心理学の技法・統計：因子分析を例にして 第15講 レポート返却(コメント付き)・講評 定期試験 各自のコメントに関連した問題						
テキスト・教材(参考文献含む)	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義中の実践課題40% レポート 40% 定期試験 20% 講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	教育は一方の方向の情報発信でなく、双方の方向の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。						

授業科目名	化学概論		科目コード	181401	授業コード	121302
担当教員	牧田 直子		科目ナンバリング	GELN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	高校で化学を学んでいない、もしくは文系の学生向けの化学の授業ではあるが、高校では論理的な説明が成されず暗記科目になりがちな部分を大学の化学で補うことで、化学の考え方を学ぶ。化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの授業のねらいである。身の回りも自分自身も物質でできており、それらを学ぶ化学は実生活に役立つ実学である。健康で快適な生活のため、持続可能な社会の実現のために何を選ぶのか。物質面からの道標が化学であり、ぜひ学んでもらいたい。					
到達目標	「元素の周期表からの確かな情報を引き出す」 「化学の目＝物質を見る目」を養うためには、元素の周期表の学習は欠かせない。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。物質の構成元素わかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。周期表を使いこなせるようになる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、化学の学び方 第2講 物質とは何か 第3講 身の回りの物質 第4講 物質の性質 第5講 物質の状態 第6講 原子と電子軌道 第7講 電子配置と周期表 第8講 化学結合 1 第9講 化学結合2、物質質量 第10講 気体と溶液の性質 第11講 化学反応 第12講 酸と塩基 第13講 酸化と還元 第14講 光 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書： 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編「『化学』入門編 ― 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ」化学同人（2007）、2160円（税込）					
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。 関連科目（環境情報学部）は「環境化学」、「自然調査法」、「環境基礎実験」など。特に環境情報学部の学生は、「環境化学」の前にこの科目を履修することが望ましい。					
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%					
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法-授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法-翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。					
担当者から一言	講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。					

授業科目名	地学概論	科目コード	181402	授業コード	121101
担当教員	森 康則	科目ナンバリング	GELN1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢				
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害など、実際の地学的事象を交えながら、学びます。				
到達目標	地球の成り立ちや、その構造を理解するとともに、それらを構成する岩石の特徴や、地震や火山などの活動に伴う地層の成り立ちなど、あらゆる地学的自然現象を網羅的に理解します。				
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 地震 第11講 火山 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 地下水 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。				
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容あるいはそれに関連する内容から出題します。				
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5 点×1 5 回＝7 5 点 （遅刻、早退は減点の対象になります） （2）定期試験 2 5 点 計 1 0 0 点				
授業内の課題・提出方法	各回の講義の最後に小テストを行い、提出を求めます。その際、講義内容に関する質問なども受け付け、評価の対象とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行うとともに、質問に対する回答やコメントを行います。				
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義の中で受講者に発言を求める場面が多々ありますので、積極的な姿勢を期待します。				

授業科目名	生物学概論			科目コード	181403	授業コード	124801
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GELN1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。						
到達目標	人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養う。人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 生物のエネルギー：代謝 第3講 光合成：エネルギーの生産 第4講 呼吸：エネルギーの活用 第5講 生体物質：反応できる窒素 第6講 タンパク質：安定した生体物質 第7講 RNA：即時処理のための核酸(形を理解する実習) 第8講 遺伝的情報：安定した核酸であるDNA 第9講 遺伝子：DNA内の情報システム 第10講 遺伝子発現の情報処理 第11講 生物の環境応答：刺激の受容 第12講 生理的情報：刺激伝達と神経システム 第13講 生理的情報の統合：興奮と抑制 第14講 環境への反応：効果器の代表としての筋肉 第15講 行動：統合された反応 定期試験 持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	実践課題60% 定期試験 40%						
授業内の課題・提出方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われていながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。						

授業科目名	数学概論			科目コード	181404	授業コード	122203
担当教員	金岩 稔			科目ナンバリング	GELN1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	高度な数学を学ぶための基礎力を養う講義です。 特に数学的な考え方を理解することに重点をおく。						
到達目標	(1) 数学的な物の考え方ができるようになる。 (2) 基礎的な数学を理解する。						
授業計画	1 ガイダンス 2 分離量と連続量 3 正と負 4 代数 5 図形 6 円 7 複素数 8 合同式 9 関数 10 極限 11 回転 12 微分 13 積分 14 微分方程式 15 まとめと確認課題						
テキスト・教材（参考文献含む）	配布資料						
事前・事後学習	予習：講義の予定内容を高校までの教科書で予習する。 復習：講義中に行った演習を各自で完答できるようにする。						
成績評価方法	出席（50％）最終課題（50％）						
授業内の課題・提出方法	講義時間中に回収						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事務を通して返却						
担当者から一言	数学の考え方を理解すると、数学に対する苦手意識がやわらぐと思います。なるべく式を使わないでわかりやすい講義を目指します。						

授業科目名	情報科学概論			科目コード	181405	授業コード	124301
担当教員	池田 幹男			科目ナンバリング	GELN1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	近年、デジタル化の急速な発展とインターネットによる高速な情報拡散によって、情報処理は急速に変化してきました。情報処理について理解することがますます重要になってきています。この授業では、パーソナルコンピュータ、スマートフォン、インターネットなどで行われている情報通信の現在の状況を学びます。						
到達目標	現代の情報処理技術の概要を理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス 人間はどうやって情報を伝えているか 第2講 情報メディア 第3講 身の回りの情報機器 第4講 コンピュータシステム 第5講 文字符号化 第6講 アナログからデジタルへ 第7講 マルチメディア（オーディオ、画像、ビデオ） 第8講 インターネット 第9講 WWW 第10講 SNS 第11講 ビッグデータと人工知能 第12講 生体認証 第13講 暗号化とセキュリティ 第14講 デジタルトランスフォーメーション（DX） 第15講 情報処理の将来 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。						
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。						
成績評価方法	教育支援システム(Moodle)を使用したディスカッション等での授業参加 30%、Moodleでの課題小テスト30%、定期テスト40%で評価します。						
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、ディスカッションしたり、課題を提出したりします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等のフィードバックします。						
担当者から一言	情報通信の発展と変化は非常に速いので、常に変化に対応できるように情報を集めるように心がけてください。						

授業科目名	データサイエンス概論			科目コード	181406	授業コード	121602
担当教員	前川 督雄、片山 清和			科目ナンバリング	GELN1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会（ネット）とフィジカル社会（現実社会）とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いてAIが社会の重要な基盤として活躍します。 これからの私たちは、データサイエンスとAIについてのリテラシーをもつことが求められるようになります。 「データサイエンス概論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身に付けてもらいます。						
到達目標	データサイエンスとAIについて基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身に着ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 社会で起きている変化① Society5.0（前川） 第3講 社会で起きている変化② AI（前川） 第4講 社会で起きている変化③ データ駆動型社会（前川） 第5講 社会で活用されているデータ（片山） 第6講 データ・AI利活用の最新動向（前川） 第7講 データ・AIの活用領域（片山） 第8講 データ・AIの利活用のための技術（片山） 第9講 データ・AI利活用の現場（片山） 第10講 データを読む・説明する・扱う（導入）（片山） 第11講 データを読む・説明する・扱う（演習）（片山） 第12講 データ・AI利活用における留意事項①（前川） 第13講 データ・AI利活用における留意事項②（前川） 第14講 データを守るうえでの留意事項（前川） 第15講 まとめ 定期試験 （必要に応じて内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	岡嶋ほか「はじめてのAIリテラシー」技術評論社 税別1680円 参考文献 江間「絵と図でわかる AIと社会」技術評論社 税別2000円						
事前・事後学習	授業前にテキストの該当する箇所を予習すること（60分）。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと（120分）。						
成績評価方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題60%、定期試験40%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	授業内で実習課題や復習課題を課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題等について、事後（次回など）に解説を行います。						
担当者から一言	本科目は、四日市大学のデータサイエンス・リテラシー（DSL）プログラムの中核科目です。 四日市大学DSLプログラムは、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」を認定されました（三重県で初めて）。						

授業科目名	キャリア基礎 a			科目コード	181501	授業コード	126101
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この科目では、大学生としても社会人としても常識として確実に身に付けておくことが求められる基礎学力の習得を目指します。教養としての数学は、文系・理系を問わず、使いこなせる必要があります。また、論理的に文章を読み取る国語の読解力は、あらゆる分野でなくてはならないものです。全15回の授業は、オンデマンドで行います。苦手とする単元は授業動画を繰り返し視聴し、確実に学力を養成していきましょう。						
到達目標	①数学の基礎学力を身に付ける。 ②新聞記事、時事的な文章、評論等の論理的な文章を読み解けるようになる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、数学1 第2講 数学2 第3講 数学3 第4講 数学4 第5講 数学5 第6講 数学6 第7講 数学7 第8講 読解1 第9講 読解2 第10講 読解3 第11講 数学8 第12講 数学9 第13講 数学10 第14講 数学11 第15講 数学12						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストを配布します。						
事前・事後学習	まずはテキストの問題を試しに解いてみる（90分）。 次に、授業動画を視聴しながら、動画の指示に従って、テキストの問題を改めて解く。 復習として、問題を完璧に解けるようになるまで解き直す（90分）。						
成績評価方法	期末試験 100%						
授業内の課題・提出方法	授業内で課題を出された場合は、課題の提出は、Moodleで行う場合もある。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答・解説などは、授業動画の中もしくはMoodleにて示す。						
担当者から一言	大学で何を専門的に学ぶにせよ、大学卒の社会人に期待される最低限の学力、特に、多くの人が苦手としがちな数学は身に付けておいた方がよいです。この科目では「やれるまでやる」「基礎学力に自信が持てるようになる」つもりで取り組みましょう。						

授業科目名	ビジネス英語 a		科目コード	181701	授業コード	123201
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GECE1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	ビジネスの場で英語を使える力を身につけるスタート段階は、世の中のいろいろなことに対して、自分の意見を持ち、それをことばで表現することです。そのための基礎的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を磨きます。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。また、将来、TOEIC、英検などの試験問題に挑戦することに備え、その出題形式を知ることを目적으로して、練習問題に挑戦します。グループワークやペアワークを多く行います。					
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. 簡単な自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。					
授業計画	第1講 ガイダンス Introduction、Unit 1/ Weather 第2講 Unit 2/ The Internet 第3講 Unit 3/ Animals 第4講 Unit 4/ Friends 第5講 Unit 5/ Helping Others 第6講 Unit 6/ Traveling 第7講 Unit 7/ Collections and Gifts 第8講 Unit 8/ Careers 第9講 Unit 9/ European Cultures 第10講 Unit 10/ Gifted Children 第11講 Unit 11/ Restaurants 第12講 Unit 12/ Transportation 第13講 Unit 13/ Homes 第14講 Unit 14/ Space 第15講 Unit 15/ Personality 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。					
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『Reading Links 2』（南雲堂） 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。					
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。					
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50％ 定期試験 50％ ※出席率は、「学習態度」に含みます。また、授業中のマナー、積極性は特に重視します。					
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。					
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。下手でもいいのでコミュニケーション（相互意思疎通）する気持ちを自分から示し、積極的に発言・情報発信してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。					

授業科目名	ビジネス英語 b		科目コード	181702	授業コード	123601
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GECE1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	自分の意見を持ち、それをことばで表現することが、ビジネスの場に立つスタート段階です。「ビジネス英語a」での学習をもとにして、引き続き、自分の意見を英語を伝えるための基礎的な英語力（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を伸ばします。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。「ビジネス英語a」に引き続き、将来のTOEIC、英検などの受験を念頭に、出題形式を知るために問題を解いてみます。グループワークやペアワークを多く行います					
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. ある程度まとまった自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。					
授業計画	第1講 ガイダンス Introduction、Unit 1/ Nature 第2講 Unit 2/ Music 第3講 Unit 3/ Hobbies 第4講 Unit 4/ Culture 第5講 Unit 5/ Interesting Places 第6講 Unit 6/ Animals 第7講 Unit 7/ Art and Design 第8講 Unit 8/ Weather 第9講 Unit 9/ Traveling 第10講 Unit 10/ Entertainment 第11講 Unit 11/ Friends 第12講 Unit 12/ Africa 第13講 Unit 13/ Self-Improvement 第14講 Unit 14/ Sports 第15講 Unit 15/ Transportation 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。					
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『Reading Links 3』（南雲堂）【「ビジネス英語a」と違うテキストですので、ご注意ください。】 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。					
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。					
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% 定期試験 50% ※出席率は、「学習態度」に含みます。また、授業中のマナー、積極性は特に重視します。					
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。					
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。下手でもいいのでコミュニケーション（相互意思疎通）する気持ちを自分から示し、積極的に発言・情報発信してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。					

授業科目名	ITリテラシー			科目コード	181801	授業コード	122401
担当教員	柳澤 翔士			科目ナンバリング	GEC11001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。						
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。						
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献含む）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ￥2300＋税						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。Web技能検定3級レベルの知識を得られるような講義を目指す。						

授業科目名	Webプログラミング 1	科目コード	181802	授業コード	124604
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	GEC11002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢				
授業のねらい	ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。				
到達目標	HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、WWWとWeb 第2講 HTML概要 第3講 画像とリンク 第4講 箇条書き 第5講 表組み 第6講 入力フォーム 第7講 CSS概要 第8講 見出しと段落 第9講 boxモデル 第10講 ヘッダー 第11講 表のスタイリング 第12講 問合せフォーム 第13講 Webサイト制作（1） 第14講 Webサイト制作（2） 第15講 Webサイト制作（3）				
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト> 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書 [改訂2版]」 技術評論社				
事前・事後学習	講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること（60分） 講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと（120分）。 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミング2」で学習します。				
成績評価方法	<評価> 「提出物」（55%）、「作品」（45%）				
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で作成したコードを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。				
担当者から一言	プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。 各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。 積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。				

授業科目名	文書表現ツール1			科目コード	181804	授業コード	123802
担当教員	池田 幹男			科目ナンバリング	GEC11003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	Word は、卒業後の実社会では必須の道具です。単に文書を作成するだけではない Word の様々な機能が使えるなることを目指します。						
到達目標	Word の便利な新機能を実際に使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word の資格取得試験の準備が整うようにします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 文書の作成 第3講 文書の管理 第4講 文字・段落の書式設定 第5講 セクションの書式設定 第6講 表やリストの作成と変更 第7講 引用文献 第8講 図表の管理 第9講 文書パーツ 第10講 SmartArt 第11講 画像の挿入 第12講 MOS word 模擬試験問題 1 第13講 MOS word 模擬試験問題 2 第14講 MOS word 模擬試験問題 3 第15講 MOS word 模擬試験問題 4						
テキスト・教材（参考文献含む）	MOS攻略問題集 Microsoft Word 日経BP社 MOS, Office のバージョンによって変わります。						
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）						
成績評価方法	毎回の課題（60％）、模擬試験演習（40％）で評価します。定期テストは実施しません。						
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle を通じて適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。						
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。						

授業科目名	公務のための判断推理			科目コード	181901	授業コード	123402
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	GECP1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。						
到達目標	1 判断推理の解法を一通り身に付ける。 2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。 3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、順序関係 第2講 順序関係 第3講 位置関係 第4講 対応関係 第5講 試合 第6講 数量関係 第7講 命題と論理 第8講 真偽 第9講 暗号と規則性 第10講 操作・手順 第11講 パズル問題 第12講 移動と軌跡 第13講 立体図形 第14講 展開図 第15講 サイコロと位相 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト NEO 判断推理』エクスア出版（2021年）1, 650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業の終わりに課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業で行います。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための数的推理			科目コード	181902	授業コード	123803
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	GECP1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員1次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、ほとんどが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理のほとんどのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。						
到達目標	1 数的推理の出題パターンとその解法を知る。 2 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、整数の性質 第2講 剰余系の問題、n進法 第3講 比と割合 第4講 方程式と不等式① 第5講 方程式と不等式② 第6講 濃度 第7講 仕事算、ニュートン算 第8講 年齢算、平均算など 第9講 集合 第10講 速さ① 第11講 速さ② 第12講 速さ③ 第13講 場合の数 第14講 確率 第15講 数列 定期試験 順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクスピア出版（2021年）1, 650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次の授業で行います。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための政治学			科目コード	181903	授業コード	123508
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	GECP1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょうか。そしてその背景には、どのような国の仕組みや権力構造、プロセス、歴史があるのでしょうか。 この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第1講 ガイダンス：この授業の進め方 第2講 三権分立と法の支配 第3講 議院内閣制 第4講 国会 第5講 内閣 第6講 官僚制と行政 第7講 裁判所 第8講 地方自治 第9講 直接請求権 第10講 選挙 第11講 政党政治 第12講 政治理論 第13講 各国の政治制度 第14講 国際政治 第15講 時事問題 定期試験 ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1, 500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。						
事前・事後学習	必ず予習・復習（各90分）をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する小テストの提出状況：30% ・定期試験（持込不可）：70%						
授業内の課題・提出方法	毎回小テストを実施し、授業中に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	社会調査入門			科目コード	182001	授業コード	123202
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GECR1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	現実の社会をとらえる方法の一つに社会調査がある。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えてゆく。これまでに行なわれた調査の実例を紹介し、社会調査の方法、目的に合わせた方法の選択、調査結果の解釈について学ぶ。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することがねらいである。						
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査の目的と意義 3 社会調査の歴史① 4 社会調査の歴史② 5 質的調査と量的調査 6 社会調査の種類と方法 7 サンプルの発展 8 公的統計の意義と活用 9 量的な社会調査の例① 10 量的な社会調査の例② 11 質的な社会調査の例① 12 質的な社会調査の例② 13 実験的方法の例 14 社会調査をめぐる環境 15 社会調査の倫理 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラム「A」科目です。 学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	社会調査の技法			科目コード	182002	授業コード	123602
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GECR1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。						
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュースに目を通す（1日10分） 授業のノートを見返す（1日10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55%。 平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートの質問などは翌週以降の授業でコメントします						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラム「B」科目です。 学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	統計学入門			科目コード	182003	授業コード	124701
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GECR1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。						
到達目標	相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身に付けて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。						
授業計画	第1講 ガイダンス：平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認 第2講 度数分布表の作成：いろいろな値段のある回転寿司屋さん 第3講 いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差) 第4講 既存統計資料の読み方と使い方 第5講 量的データと伴って変わる量 第6講 比例と1次関数 第7講 1次関数のグラフの拡張：散布図 第8講 Excelを使つての散布図の作成 第9講 1次関数と相関係数 第10講 Excelを使つての相関係数の求め方 第11講 相関係数の性質 第12講 データの性質の拡張：質的データ 第13講 データの入力と照合(統計的資料を使つて) 第14講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明 第15講 相関関係・関連性と因果関係の違い：擬似相関と実験計画 定期試験 持ち込み不可 第2講から第14講までパソコン・スマホなどを使つての実習となります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	パソコン教室の実習形式で行います。パソコン(スマホでも)を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。						

授業科目名	スポーツ指導論			科目コード	182101	授業コード	121303
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	GECS1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者としての心構え、スポーツ指導者に必要な医学的知識、対象者に合わせたスポーツ指導法等を学ぶ。						
到達目標	スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 スポーツ指導者とは 第3講 指導者の心構え・視点 第4講 競技者育成プログラムの理念 第5講 スポーツと健康 第6講 スポーツ活動中に多いケガや病気 第7講 救急処置 第8講 指導計画の立て方 第9講 スポーツ活動と安全管理 第10講 中高年者とスポーツ 第11講 女性とスポーツ 第12講 障害者とスポーツ 第13講 プレイヤーと指導者の望ましい関係 第14講 ミーティングの方法 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ指導に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合があります。						

授業科目名	スポーツトレーニング論			科目コード	182102	授業コード	121102
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	GECS1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。体力トレーニングに関連する知識や発育発達期の特徴について学ぶ。						
到達目標	トレーニングについての基礎的知識とジュニアに対する指導法を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 体力とは 第3講 体力とは 第4講 トレーニングの進め方 第5講 トレーニングの進め方 第6講 トレーニングの種類 第7講 トレーニングの種類 第8講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第9講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第10講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第11講 発育発達期に多いケガや病気 第12講 発育発達期に多いケガや病気 第13講 発育発達期のプログラム 第14講 発育発達期のプログラム 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、トレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合があります。						

授業科目名	アスリート育成論			科目コード	182103	授業コード	121801
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	GECS1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。競技スポーツ指導者としての心構えや競技スポーツ指導者に必要な諸知識について学ぶ。						
到達目標	アスリート育成のための高度な知識と指導法を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 競技者育成プログラムの理念に基づく展開 第3講 競技者育成と評価競技 第4講 競技者育成システムにおける指導計画 第5講 競技力向上のためにチームマネジメント 第6講 スポーツとIT 第7講 アスリートの健康管理 第8講 アスリートの内科的障害と対策 第9講 アスリートの外傷・傷害と対策 第10講 アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 第11講 コンディショニングの手法 第12講 スポーツによる精神障害と対策 第13講 特殊環境下での対応 第14講 アンチドーピング 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、アスリート育成に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、受講の意思が認められない場合は欠席扱いとする。						

授業科目名	スポーツ心理学			科目コード	182104	授業コード	123603
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	GECS1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。授業では、意欲・学習・発達・性格特性・集団・環境など多岐にわたる要因を広く取り上げ、スポーツと心理の関係についての理解を深める。						
到達目標	スポーツ場面における心理的諸問題について考察を加え、スポーツ活動及びコーチング行動にいかせる基礎的かつ実践的な知識を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス・スポーツ心理学とは 第2講 スポーツと心 第3講 スポーツにおける動機づけ 第4講 技能の練習と指導 第5講 プレイヤーの個人指導と心理的問題 第6講 チームの指導と心理的問題 第7講 コーチングの評価 第8講 メンタルマネジメントとは 第9講 リラクセーション 第10講 イメージトレーニング・集中カトレーニング 第11講 心理的コンディショニング 第12講 プレッシャー・あがり・スランプの克服 第13講 指導者のメンタルマネジメント 第14講 スポーツ環境における精神障害と対策 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」、Robert S. Weinberg, Daniel Gould「Foundations of sport and exercise psychology」Human Kinetics、若山裕晃・渡辺英児「野球メンタル強化メソッド」実業之日本社 授業では、講義内容に沿った資料を配付する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ心理学やメンタルトレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。						

授業科目名	全学共通特別講義 a		科目コード	182201	授業コード	126503
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GESG1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力					
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。					
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。					
授業計画	10月上旬 「ガイドンス」 13：00-14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10-15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20-17：00 グループワーク 10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00-15：30 展示見学・講義 15：40-17：00 グループワーク 10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00-12：00 施設見学・体験 12：00-13：00 昼食・移動 13：00-14：00 農を活かした観光開発 14：10-16：10 グループワーク 11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00-16：10 フィールドワーク 12月上旬 「食と観光を考える」 13：00-17：00 グループワーク 12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00-16：00 成果発表会 16：00-17：00 講評・まとめ ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。					
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）					
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。					
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。					
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。					
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。					

授業科目名	ボランティア活動 a			科目コード	182206	授業コード	126103
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	GES1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	1 対象となる活動 ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教務課に置いてある）を教学課に提出すること。 5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで） ① ボランティア活動a単位認定申請書 ② ボランティア活動団体発行の証明書 ③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	ボランティア活動 b			科目コード	182207	授業コード	126104
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	GESC1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	1 対象となる活動 ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教務課に置いてある）を教学課に提出すること。 5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで） ① ボランティア活動b単位認定申請書 ② ボランティア活動団体発行の証明書 ③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	国際協力研修			科目コード	182208	授業コード	126502
担当教員	岩崎 祐子			科目ナンバリング	GESCI008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。 海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。						
到達目標	1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 2 国際感覚を身に付けます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 事前研修 第3講 事前研修 第4講 海外現地研修 第5講 海外現地研修 第6講 海外現地研修 第7講 海外現地研修 第8講 海外現地研修 第9講 海外現地研修 第10講 海外現地研修 第11講 海外現地研修 第12講 海外現地研修 第13講 海外現地研修 第14講 海外現地研修 第15講 海外研修の振り返り ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。 ※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。						
テキスト・教材（参考文献含む）	外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。						
事前・事後学習	事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分） 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）						
成績評価方法	四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50%）活動日誌・レポート（50%） 大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50%）レポート（50%） ※評価（単位）は、次年度前学期につきます。						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。						
担当者から一言	2024年2月にタイで1週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。 ※研修には研修参加費が必要です。 ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。						

授業科目名	政策科学入門Ⅰ			科目コード	481001	授業コード	123301
担当教員	永井 博			科目ナンバリング	PFC2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけるための基礎的な知識や技術を修得する。						
授業のねらい	この講義では総合政策学部専門教育科目を履修する準備をします。教員が分担して、政治、経済、国際社会、現代社会の諸問題について講義します。すでに高校までに学修した内容も含まれますが、大学生になった今、あらためて各テーマについてよく理解するようにして下さい。この講義で説明される用語は基本中の基本なのでしっかりと覚えるようにしましょう。						
到達目標	学部の専門教育科目を学んでいくための基本的な用語や考え方を理解できるようになること。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 現代の政治 ① 第3回 現代の政治 ② 第4回 現代の政治 ③ 第5回 現代の政治 ④ 第6回 現代の経済 ① 第7回 現代の経済 ② 第8回 おさらいの回 第9回 現代の経済 ③ 第10回 現代の経済 ④ 第11回 現代の国際社会 ① 第12回 現代の国際社会 ② 第13回 現代社会の諸課題 ① 第14回 現代社会の諸課題 ② 第15回 専攻ガイダンス * 授業の順番は入れ替わることがあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特にありません。教員から資料が配布されます。参考文献として次のものを挙げておきます。 井堀利宏『教養としての政治経済学』（総合法令出版） 中島岳志『自分ごとの政治学』（NHK出版） 山崎広明他『詳説 政治・経済』（山川出版社）						
事前・事後学習	普段から新聞やインターネットなどのメディアで、政治・経済・国際問題などの記事を読んでおくこと。（1日20分） 毎回の授業で課された課題レポートに取り組むこと。（90分）						
成績評価方法	講義への参加意欲、講義で課す課題レポートなど（75%）、定期試験（25%）で総合評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に関連した課題レポートを課すので、それに取り組むこと。 レポートの提出は、講義のあったその週の金曜日の16:00までで、提出方法はmoodleを予定しています。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	それぞれの回の担当教員からレポートの内容に関して総合的なコメントをフィードバックします。						
担当者から一言	4年間の学部専門科目の学修の基本となる大切な必修科目です。欠席や遅刻したりせず毎回必ず出席し、しっかりと15週学んでください。						

授業科目名	入門演習a	科目コード	481003	授業コード	124108
担当教員	永井 博	科目ナンバリング	PFC2003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけるための基礎的な知識や技術を修得する。論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につける。				
授業のねらい	学生生活を進めるうえで必要な、次のようなスチューデントスキル（四日市大学の学生として最低限身につけておいてもらいたい基礎的な知識・技能など）を学びます。 1. 授業を受けるうえで必要なスキル 2. 人間関係を作るうえで必要なスキル 3. 大学での学修を助けてくれる施設を知り、活用するスキル 4. 総合政策学部を知り、学修を進めていくスキル				
到達目標	大学生として必要なスチューデントスキルを知り、活用することができるようになること。				
授業計画	第1回 履修登録のチェック 第2回 ガイダンス（入門演習とは） 第3回 総合政策学部とは 第4回 大学の講義の受け方 第5回 C S Cガイダンス 第6回 コンピュータ・センターと情報センターのガイダンス 第7回 ノートの取り方（基本的なこと・ノートの取り方・ノートを取る際の注意） 第8回 ノートの取り方 ②（模擬授業とノートチェック） 第9回 読解の基礎 ①（課題文の読解） 第10回 読解の基礎 ②（課題の解答の確認） 第11回 新聞記事の読み方 ①（新聞記事とは・新聞の組み立て・新聞記事の読み方） 第12回 新聞記事の読み方 ②（課題の報告） 第13回 人前で話す ①（話す力とは・3つの力・話す力を伸ばす） 第14回 人前で話す ②（自己紹介の準備） 第15回 人前で話す ③（自己紹介） * 授業の順番は入れ替わることがあります。				
テキスト・教材（参考文献含む）	四日市大学総合政策学部編『クレッシェンド 総合政策』2023年度版				
事前・事後学習	毎回の授業に関係するテキストをよく読み、その章の「予習」に取り組むこと。（90分） 毎回の授業に関係するテキストの章の「復習」に取り組むこと。（90分）				
成績評価方法	定期試験は行わない。授業・課題への取り組みなどを100%として評価する。				
授業内の課題・提出方法	テキストの関係箇所（章）に課題があるので、それに取り組むこと。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教員がチェックした課題を、翌週以降にコメントとともに返却する。				
担当者から一言	大学で学んでいくための基本的で必須な知識やスキルを学ぶ授業です。なかでも「読む」力を重視します。また、先生と知り合い、友だちをつくる機会でもあります。積極的に参加してください。				

授業科目名	入門演習b			科目コード	481004	授業コード	124508
担当教員	永井 博			科目ナンバリング	PFC2004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけるための基礎的な知識や技術を修得する。論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につける。						
授業のねらい	大学生として、また総合政策学部 of 学生として学ぶために必要なスタディスキルを学ぶ。						
到達目標	大学生として必要なスタディスキルを知り、活用することができるようになること。						
授業計画	第1回 ガイダンス／履修登録のチェック 第2回 レジューメの作り方 ①（レジューメとは・レジューメ各部の作り方など） 第3回 レジューメの作り方 ②（レジューメ作成・確認） 第4回 資料の探し方・選び方 第5回 引用の基礎（テキストとドリル） 第6回 基礎演習ガイダンス 第7回 研究倫理教育 第8回 文章・レポートの書き方 ①（文章の構造・推敲） 第9回 文章・レポートの書き方 ②（レポートの確認） 第10回 ディベート ① 解説 第11回 ディベート ② 準備 第12回 ディベート ③ 準備 第13回 ディベート ④ 実践 面接 第14回 ボランティア・ガイダンス 第15回 1年次の振り返りと2年次に向けて ＊授業の順番は入れ替わることがあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	四日市大学総合政策学部編『クレッシェンド 総合政策』2023年度						
事前・事後学習	毎回の授業に係るテキストの章をよく読み、その「予習」に取り組むこと。（90分） 毎回の授業に係るテキストの章の「復習」に取り組むこと。（90分）						
成績評価方法	定期試験は行わない。授業・課題への取り組みなどを100%として評価する。						
授業内の課題・提出方法	テキストの関係箇所（章）に課題があるので、それに取り組むこと。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教員がチェックした課題を、翌週以降にコメントとともに返却する。						
担当者から一言	大学で学んでいくための基本的で必要な知識やスキルを学ぶ授業です。なかでも「書く」「話す」力を重視します。積極的に参加してください。						

授業科目名	総合政策概論			科目コード	481201	授業コード	126102
担当教員	岡 良浩			科目ナンバリング	PMC2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	総合政策とは、経済学や法学といった特定の学問領域のことではなく、まず社会的な課題があり、それを色々な人や組織がそれぞれに持てる力を合わせて解決する、あるいはその解決策を見出していこうとすることです。 この講義では、総合政策学部の各教員が、それぞれ専門としている領域を念頭に、その内容を講義するものです。なおこの講義は、事前に収録された動画を視聴するオンデマンド方式で行います。						
到達目標	以下の3つを掲げています。 1. それぞれの教員の領域を理解すること 2. 総合政策のもつ分野の多様性を理解すること 3. 今後自らが専攻する分野や指導教員などを見定めること						
授業計画	第1講 ガイダンス／未来を拓く中小企業の役割（岡良浩） 第2講 会計情報と株価（奥原貴士） 第3講 人生の抽象化-学問する意味-（川崎綾子） 第4講 選挙・代表制民主主義と「くじ引き民主主義」（小林慶太郎） 第5講 文学作品や文学現象、文化現象を解明するということ（高田晴美） 第6講 自由貿易がもたらす効果について（鶴田利恵） 第7講 リアリティの境界（富田与） 第8講 環境基本法のとらえ方（中西紀夫） 第9講 正義とは何か（フェリペフェハーリ） 第10講 未婚化のゆくえ（三田泰雅） 第11講 米国野球界の人材育成（若山裕晃） 第12講 まちづくりのプロデュース（鬼頭浩文） 第13講 地域の学びと文化（浅井雅） 第14講 地域の歴史・文化とまちづくり（倉田英司） 第15講 公共政策と価値の多様性（吉川和挟） ※日程・内容などは変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に使用しません。（講義中に教員がプリントを配布することがあります。）						
事前・事後学習	事前学習：新聞やニュースに目を通しておくこと（90分） 事後学習：各講で課された小レポートを作成すること（90分）						
成績評価方法	各講で課す小レポート（75%）期末試験（25%）						
授業内の課題・提出方法	オンデマンドで配信された動画を視聴後に、各講で課された小レポートを作成し、提出いただきます。提出は学内の教育支援システムMoodleで提出いただく予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートの点数を各自に採点するとともに、全体の講評をMoodle内で掲示します。						
担当者から一言	この講義は、総合政策学部の教員がオムニバスに毎回登壇し、それぞれの専門領域について総合政策の観点から講義するものです。この講義を通じて、ご自身の専攻分野や関心領域を見定めてください。						

授業科目名	近現代史概論			科目コード	481202	授業コード	122601
担当教員	浅井 雅			科目ナンバリング	PMC2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	歴史を単なる為政者の歴史としてとらえるのではなく、様々な側面からとらえ、その実態にアプローチし、当該時代の特徴を理解するとともに新たな見方を発見していく。						
到達目標	歴史を暗記科目としてとらえるのではなく、そこにある因果関係や影響を考察し、さらには先人たちの営みや知恵を感じ取ること。また、それらを我々の生活に活かしていくことが最終目標である。						
授業計画	1. ガイダンス、歴史の基礎知識等 2. 政治・行政の概要 3. 戦前の政治・行政（1） 4. 戦前の政治・行政（2） 5. 戦前の政治・行政（3） 6. 戦後の政治・行政（1） 7. 戦後の政治・行政（2） 8. 戦後の政治・行政（3） 9. 産業・経済（1） 10. 産業・経済（2） 11. 産業・経済（3） 12. 社会・文化（1） 13. 社会・文化（2） 14. 社会・文化（3） 15. まとめ 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書等があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60分～90分）						
成績評価方法	毎回の授業後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。 期末レポートもMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出とのこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	社会思想史			科目コード	481203	授業コード	123804
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	PMC2003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	アリストテレスは『政治学』において、「人間は社会的な動物である」と述べました。それは人間が共存し、他の動物には見られない協力することができるという意味です。本講義の目的が社会学の根本的な問題を学び、現代社会の問題を分析することです。						
到達目標	主な社会学者の思想を学びながら、現代社会の特色を多面的・多角的に捉えます。						
授業計画	第1講 ガイダンス・社会学とは何か 第2講 社会学の目標 第3講 古代におけるポリス 第4講 国家の誕生 第5講 社会契約論 第6講 コントにおける社会学 第7講 唯物弁証法 第8講 階級闘争 第9講 イデオロギーの時代 第10講 冷戦と歴史の終わり 第11講 新自由主義とメリトクラシー 第12講 現代社会学の問題 ① 第13講 現代社会学の問題 ② 第14講 社会学の将来 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
担当者から一言	社会的動物として、授業で協力し社会思想史を勉強しましょう。						

授業科目名	公共哲学	科目コード	481204	授業コード	125302
担当教員	フェリペ フェハリー	科目ナンバリング	PMC2004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。				
授業のねらい	マイケル・サンデルによると、「公共哲学」の目的が日常生活にある政治的及び法的問題や矛盾を見出し、道徳哲学の立場から現代社会を分析することです。本講義の目的は、「哲学」の公共性の歴史の学びながら、倫理的な生活への道具としての「哲学」を考えることです。				
到達目標	哲学の立場から、現代社会の問題を議論すること。				
授業計画	第1講 ガイダンス・「公共哲学」とは何か 第2講 マイケル・サンデルにおける「公共哲学」 第3講 日常生活の哲学 第4講 道徳と倫理 第5講 エートス 第6講 「力」と「責任」 第7講 権威主義と民主主義 第8講 人権の誕生 第9講 多元主義 第10講 ジェンダー 第11講 マイノリティー 第12講 動物の権利 第13講 SDGs の問題 第14講 これからの哲学 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、教員が資料を配布する。				
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。				
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%				
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。				
担当者から一言	真剣に哲学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず哲学的に生活していると思いますか？一緒に現代社会における哲学の価値と「公共哲学」の意味を探しましょう。				

授業科目名	マクロ経済学入門			科目コード	481205	授業コード	123203
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PMC2005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている						
授業のねらい	経済学の基本的な理論を習得します。国民所得がどのように決定されるのか、財政政策や金融政策とはどのようなものなのか、そのような経済政策によってどのような変化が起きるのかなどについて学び、世の中の動きを理解する力を身につけます。						
到達目標	新聞やニュースで取り上げられている経済に関する出来事の意味を理解し、それに関連する問題点を捉える力をつける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、経済学とは？-ミクロ経済学とマクロ経済学- 第2講 マクロ経済学と日本経済 第3講 GDP（国内総生産）とは？ 第4講 消費と貯蓄 第5講 企業の投資 第6講 政府の支出 第7講 GDP（国内総生産）の決定 第8講 財政政策（1） 第9講 財政政策（2） 第10講 貨幣の定義 第11講 金融政策（1） 第12講 金融政策（2） 第13講 財市場と金融市場の同時分析（1） 第14講 財市場と金融市場の同時分析（2） 第15講 財市場と金融市場の同時分析（3） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	家森信善「マクロ経済学の基礎」ベーシックプラスシリーズ 中央経済社（2021） 定価：2200円（税込）						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（90分以上）。						
成績評価方法	授業態度20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	ミクロ経済学入門			科目コード	481206	授業コード	123604
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PMC2006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている						
授業のねらい	ミクロ経済学の中心をなす企業や消費者の行動や市場メカニズムは、経済を理解する上で最も基本的なテーマになる。この講義では、企業や消費者がどのように行動し、それが経済に対してどのようなインパクトを持つのか考えていく。とくに「競争」については、日ごろ意識することが少ないため、ここで勉強することは社会に出てから大いに役立つと思う。理論的な考察も重要だが、ここでは参加・体験型のアクティブ・ラーニングも取り入れ、直感的・感覚的にミクロ経済学を学ぶ。						
到達目標	ミクロ経済の仕組みや動きについて深く理解し、社会人になって経済の動きを予想して対応できる能力を身につけるのが目標である。						
授業計画	1：対面；ガイダンス：コロナ禍の地域経済① 2：OD；消費者の行動①個別需要曲線の理論；スタート 3：OD；消費者の行動②練習問題を解き、コラムを簡単に説明 4：OD；消費者の行動③コラムの復習をして、最後の問題を解かせる 5：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給① 6：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給② 7：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給③ 8：対面；独占禁止政策① 9：対面；独占禁止政策② 10：対面；独占禁止政策③ 11：対面；実際の独占禁止政策(講師：公正取引委員会) 12：対面；コロナ禍の地域経済② 13：対面；震災からの復興と地域経済① 14：対面；震災からの復興と地域経済② 15：対面；講義の振り返り						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	レポートや課題に取り組む準備学習・事後学習の時間を確保すること。必要な時間は、レポート各3時間(15時間)ほど、課題は各10時間ほど(20時間)が必要である。また、期末試験に向けて、授業全体を振り返る復習が10時間ほど必要である。						
成績評価方法	毎回Moodleで提出する課題(75%)、対面・持ち込み不可による学期末試験(25%)により、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	レジュメの空白に授業の内容をノートテイクし、写真にしてMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。						
担当者から一言	提出された課題によって理解度を厳しく判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。						

授業科目名	ジェンダー論			科目コード	481207	授業コード	122706
担当教員	高田 晴美、三田 泰雅			科目ナンバリング	PMC2007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	ジェンダーの問題とは、性差別的な問題から、差別とまではいかないけれども理不尽に思う人が出てくるという問題まで、様々あります。それだけに、解決方法も、制度やルールを変えていけば解決するものから、意識変革をしていかないと無理なものまで様々。社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていることをまずは知り、意識してもらいたい。その上で、ではどうすればいいのかを考えていきましょう。授業は2名の教員（高田・三田）で実施します。						
到達目標	1 ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。 2 社会の中にあるジェンダーに気づき、問題として意識することができる。 3 性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、ジェンダーバイアス（高田） 第2講 ネーミング問題（高田） 第3講 〈女らしさ〉の罫—女はつらいよ（高田） 第4講 ハッピーエンドとプリンセス—ポストフォーディズムとジェンダー（三田） 第5講 家制度と選択的夫婦別姓問題（高田） 第6講 おばあさんは川へ洗濯に？—近代社会の性別役割分業（三田） 第7講 不払い労働、見えない家事問題（高田） 第8講 メディアにおけるジェンダー表現①—フィクション編（高田） 第9講 メディアにおけるジェンダー表現②—CM・広告編（高田） 第10講 〈男らしさ〉の罫—男もつらいよ—男性学の視点（三田） 第11講 続く男らしさの罫—男性性とホモソーシャルな関係（三田） 第12講 それでも僕であるために—弱者男性論（三田） 第13講 身体にまつわる問題（高田） 第14講 ジェンダーに関わるハラスメント（高田） 第15講 恋愛にまつわる〈女性学〉〈男性学〉（高田） 講義の順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。						
事前・事後学習	（授業前）日頃からニュースなどに目を通しておく。（毎日20分程度） （授業後）学んだ内容を復習し、世の中の様々な場面に、授業で取り上げた問題にひっかかることがないか見つけ、考える。（40分）						
成績評価方法	毎回の小レポート 50% 定期試験 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義の終わりに、小レポート（コメント）を書いて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート（コメント）については、適宜、講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。						
担当者から一言	「女性学」「男性学」の視点を持った2人の教員が、それぞれの持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。						

授業科目名	地方自治論			科目コード	481301	授業コード	123701
担当教員	吉川 和挟			科目ナンバリング	PPR2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義では地方自治の制度と仕組み、役割などについて体系的に学びます。 少子高齢化や人口減少が問題となっている現代において、地方自治体の役割はより大きくなり、その地域に根付いたより創造的な政策の提案が求められています。 この講義を通して、皆さんが地方自治の担い手として地域にかかわっていく際の基礎知識を習得することを目指します。						
到達目標	・地方自治に関する制度やしぐみを理解できる。						
授業計画	01. ガイダンス/地方自治「民主主義の学校」 02. 地方自治の現状 03. 首長 04. 議会 05. 地方公務員 06. 住民による統制 07. 条例制定 08. 地方自治体の組織編制 09. 地方自治体の権能と大都市制度 10. 地方税財政と予算 11. 中央政府と地方政府 12. 教育行政 13. 子育て行政 14. 高齢者福祉 15. 人口減少と地方自治 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・北村巨、青木栄一、平野淳一「地方自治論」有斐閣（2017）						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：50% ・定期テスト（自筆ノートのみ持ち込み可）：50%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
担当者から一言	他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じることがあります。						

授業科目名	法学入門			科目コード	481302	授業コード	125601
担当教員	中西 紀夫			科目ナンバリング	PPR2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている						
授業のねらい	法学の発達の歴史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法（憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。						
到達目標	社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思えますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 六法の意味、社会規範 第3講 実定法と自然法、法源 第4講 制定法の体系、法の形式による分類 第5講 法の種別（国内法）、国内法と国際法 第6講 公法と私法、裁判による権利の実現 第7講 法の適用、法解釈における問題点 第8講 権利と義務、権利義務の主体と客体 第9講 罪刑法定主義 第10講 法と裁判（裁判の仕組み） 第11講 民事裁判、刑事裁判、行政裁判 第12講 司法権の独立と公開主義 第13講 自由心証主義、今日までの裁判の課題 第14講 裁判員制度とその課題 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような配点配分です。 受講態度 30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	防災とまちづくり			科目コード	481406	授業コード	125303
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PPL6002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている						
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 *テキスト・受験料などの実費18,000円が必要(看護大B館で証紙購入)です。						
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。						
授業計画	対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド 1 4/7 ガイダンス(対面)／補講1；近年の災害 2 4/14 第1講；地震・津波／第2講；気象災害・風水害／第9講；行政の災害対策 3 4/21 第7講；ハザードマップ／補講2；耐震補強／第20講；災ボラ／第17講；自主防 4 4/28 第11講；復旧・復興／第12講；災害医療／第18講；避難所 5 5/13 午前；防災士養成講座（会場研修）① 6 5/13 午後；普通救命講習（場所：体育館） 7 5/14 午前；防災士養成講座（会場研修）② 8 5/14 午後；防災士養成講座（会場研修）③ 9 5/20 午前；防災士養成講座（会場研修）④ 10 5/20 午後；防災士養成講座（会場研修）⑤ 11 5/26 第3講；土砂災／第4講；火山／第5講；火災 12 6/2 第6講；予報・警報／第8講；災害情報／第10講；行政 13 6/9 第13講；ライフライン／第14講；事業継続／第15講；地震への備え 14 6/16 第16講；風水害への備え／補講3；損保 15 6/23 第19講；多様性／第21講；防災士／補講4；訓練 ★8月5日(土)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担18,000円に含まれる。						
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。						
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。						
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。						
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。						

授業科目名	ダイバーシティ社会論		科目コード	481503	授業コード	122101
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	PPC5001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。					
授業のねらい	ダイバーシティ（divercity）、あまり耳なじみのない言葉かもしれません。日本語では、多様性とも訳されます。この授業では、多様な人々が共生する社会「ダイバーシティ社会」について考えていきます。 年齢・国籍・文化的背景、性的指向・性自認などの性のあり方、障がいの有無など身体や心の状態・・・私たちの社会に暮らしている人は千差万別で、一人ひとりに違いがあります。また、人生の中で置かれた状況や立場も、時により変わっていきます。 この講義は、学生の皆さんがこうした社会の多様性に気づき、その多様性が認められ					
到達目標	この授業では、学生諸君が、日本の社会の多様性に関する基本的な知識を身につけ、ダイバーシティ社会の担い手に相応しい言動が出来るような人になっていくことを、到達目標としています。					
授業計画	第1講 ガイダンス：この講義の進め方 第2講 世界がもし100人の村だったら 第3講 民族と国民国家 第4講 棲み分けか統合か ～諸外国のケースから～ 第5講 日本における少数民族政策 第6講 もう一つの民族問題 在住外国人 第7講 日本における在住外国人政策 第8講 地域における在住外国人政策 第9講 セクシュアルマイノリティと「L G B T」 第10講 トランスジェンダーと性同一性障害 第11講 同性愛・両性愛と異性愛 第12講 地域におけるセクシュアルマイノリティ政策 第13講 性感染症をめぐる差別とタブー 第14講 ダイバーシティ経営 第15講 ダイバーシティ社会の推進に向けて（グループワーク） 定期試験 ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。					
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。 【参考文献】 小林慶太郎「L G B Tと自治体行政」時事通信社（2016年）、650円＋税					
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。					
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30% ・定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70%					
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。					
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。					

授業科目名	市民とまちづくり			科目コード	481505	授業コード	125401
担当教員	小林 慶太郎、鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PPC6001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この授業では、市民とまちづくりについて扱っていきます。まちづくりの担い手として注目されている市民。市民とはいったいどのような人々で、実際にどのような取り組みを行っているのでしょうか。 この授業では、実際にまちづくりに携わっている市民の話も聞きながら、市民による取り組みの可能性や実情について学んでいきます。 学生諸君が、まちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取り、将来まちづくりを担う人としての資質を磨いてくれることを、ねらいとしています。						
到達目標	この授業では、学生諸君が、まちづくりの実際を知ることを経て、まちづくりについての自分なりの考え方を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	第1講（小林）ガイダンス（授業の進め方） 第2講（小林）「市民」とは何か 第3講（小林）NPOと市民活動 第4講（鬼頭）四日市JAZZフェスティバルとは 第5講（鬼頭）市民によるイベント運営 第6講（鬼頭）四日市JAZZフェスティバルと四日市大学 第7講（鬼頭）イベント実施の波及効果 第8講（鬼頭）ボランティアのすゝめ 第9講（鬼頭）ボランティアセンターを活用しよう 第10講（小林）まちおこしと市民活動団体 第11講（小林）四日市とんてき協会の取り組み 第12講（小林）B-1グランプリとは何か 第13講（小林）津ぎょうざ小学校の取り組み 第14講（小林）松阪・亀山・名張のまちおこし団体の取り組み 第15講（小林）市民活動にチャレンジしてみよう（まとめ） ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。						
事前・事後学習	日頃から地域やまちづくりに関するテレビや新聞のニュースに目を通すこと（90分／週）。 ボランティアなどの市民の取り組みに関する情報を積極的に収集すること（90分／週）。						
成績評価方法	3分の1以上欠席した学生には、原則として単位は与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・ 講義時に指示する簡単な課題の提出状況：60% ・ 定期試験（レポート）：40%						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	現代社会論			科目コード	481701	授業コード	123702
担当教員	三田 泰雅、富田 与			科目ナンバリング	PHR2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている						
授業のねらい	社会の「しくみ」と人々の「つながり」の変化をたどりながら、現代の日本社会と国際関係のあり方を考える。						
到達目標	現代社会を生きてゆく上での諸問題に気づけるようになる。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会の発見 3 福祉国家とフォーディズム 4 日本的経営 5 ポストフォーディズム 6 自己責任論の時代 7 国家と外交 8 戦争と平和 9 国際機関の役割 10 国際会議と地域組織 11 意見としての事実 12 わかりあえない世界で 13 国際報道の仕組み 14 報道とプロパガンダ 15 デジタル社会の報道 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 平田オリザ（2012）『わかりあえないことから』講談社。						
事前・事後学習	新聞・ニュースに目を通す（1日20分以上）。						
成績評価方法	平常点45%、期末試験55%。 平常点は授業への参加度と課題の内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内でミニツツペーパーを作成し提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツツペーパーの内容は翌週以降の授業内で適宜コメントします						
担当者から一言	私たちが生きる社会の「しくみ」に目を当てて、現代社会の理解を試みます。						

授業科目名	表象文化論			科目コード	481703	授業コード	125602
担当教員	富田 与、三田 泰雅、高田 晴美、永井 博			科目ナンバリング	PHR2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	私たちの日常空間のほとんどは、誰かが何かを表現した表象で構成されています。この講義では、4人の担当教員がそれぞれの専門と関心から、図像（絵画、写真）、テキスト（小説、談話）そしてその組みあわせであるマンガ、アニメ、映画などを材料に、表象読解の理論（イコノロジー、記号論、ジェンダー論、フェミニズム論、テキスト理論など）と実践を紹介します。						
到達目標	表象文化の考え方を踏まえながら、言語や図像による表現を読み解く能力を身に付ける。						
授業計画	第1講：ガイダンス、表象文化とは 富田 第2講：表象の考え方 富田 第3講：「病のアレゴリー」「病」を巡る表象（1）富田 第4講：「厄払い」「病」を巡る表象（2）富田 第5講：「〈病〉を〈業〉として機能させる物語」「病」を巡る表象（3）高田 第6講：「〈メンヘラ〉を芸術に昇華する」「病」を巡る表象（4）高田 第7講：「病んでいるのは誰か」「病」を巡る表象（5）三田 第8講：「街路の表象 バンクシーを中心に」「病」と「戦争」を巡る表象 富田 第9講：「戦いの性別役割分業」「戦争」を巡る表象（1）三田 第10講：「男性性の檻」「戦争」を巡る表象（2）三田 第11講：「女性が戦争を語るということ」「戦争」を巡る表象（3）高田 第12講：テキスト理論の基礎 永井 第13講：「捕虜の表象その1」「戦争」を巡る表象（4）永井 第14講：「捕虜の表象その2」「戦争」を巡る表象（5）永井 第15講：「井上哲次郎の捕虜言説」「戦争」を巡る表象（6）永井						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	授業中に出された課題を作成してください（180分）。						
成績評価方法	授業内の課題（30%）と最終レポート（70%）で評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題はmoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必用に応じて授業の中でコメントします。						
担当者から一言	講義に参加しながら教員が気づいていない事を見つけてください。そして新しい見方を提案してみてください。表象文化と一緒に楽しんでみましょう。						

授業科目名	経営学入門			科目コード	482101	授業コード	123703
担当教員	川崎 綾子			科目ナンバリング	PMR2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義では、経営学の諸理論を理解し身につけることで、受講生の経営学の研究能力とリーダーとしての資質を醸成する。経済社会や企業に潜む問題を自ら発見し、解決する能力の育成を目指す。						
到達目標	経営の理論的な用語を駆使し、企業社会の問題解決に自ら分析的に取り組むことができる。 文献などの資料から必要な証拠を収集し、説得性の高い論理的なレポートの作成能力をもつ。						
授業計画	第1講 ガイダンス／単位取得に関する注意事項 第2講 経営の目的（1）／顧客価値の提供 第3講 経営の目的（2）／価値提供のための組織づくり 第4講 組織と不確実性 第5講 人のマネジメント（1） 第6講 人のマネジメント（2） 第7講 組織デザインと分業（1）／外部業者の活用 第8講 組織デザインと分業（2）／アウトソーシングと製品のモジュラー化 第9講 組織デザインと統合 第10講 様々な取引形態／取引コストと信頼 第11講 資源依存理論 第12講 提携の様々な形／製作委員会とプロデューサー 第13講 商品開発 第14講 流通のしくみ 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書は指定しない。資料を配布する。						
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、理論的用語の予習や復習、マネジャーの立場における課題解決の練習に取り組むことが望ましい（毎週3時間程度）。						
成績評価方法	中間レポート 50% 最終レポート（レポート試験）50%						
授業内の課題・提出方法	中間および最終レポートはmoodleから提出すること。 毎回の出席確認の質問は講義内で紙提出してもらう予定。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義中にコメントする。 優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。						
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが、経営学は1から教えますので大丈夫です。 ※2回以上、私語の注意を受けた人には、原則単位を認めません。 経営は目的達成のために持続的に事を行うことです。生活にもお役に立てれば幸いです。						

授業科目名	簿記入門			科目コード	482103	授業コード	125603
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PMR2003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	企業は日常的に様々な活動をしています。たとえば、商品を仕入れてその商品を販売したり、事務所に使う建物を購入したり、資金が不足したら銀行から借り入れたりなど多種多様な取引を行っています。そして、これらの取引は簿記によって記録され、その記録に基づいて財務諸表が作成されます。本講義では、企業が行う取引について簿記の技術を用いてどのように記録するのかを学習します。						
到達目標	簿記では、企業が行う取引を仕訳によって記録していきます。よって、まず仕訳のルールを理解します。そして、商品の売買や銀行からの借入れなどの取引に関する仕訳の方法を身につけます。最後に、仕訳の内容に基づいて試算表が作成できるようになることを本講義の到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 簿記の基礎 第2講 日常の手続き（簿記上の取引・仕訳など） 第3講 日常の手続き（転記・試算表作成の基礎） 第4講 商品売買 第5講 商品売買 第6講 商品売買 第7講 現金・当座預金 第8講 現金・当座預金 第9講 小口現金・手形 第10講 小口現金・手形 第11講 その他の期中取引（貸付金・借入金など） 第12講 その他の期中取引（固定資産・有価証券など） 第13講 その他の期中取引（税金の支払など） 第14講 試算表の作成 第15講 試算表の作成 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料は毎回プリントを配布します。 （参考文献） 『合格テキスト日商簿記3級』TAC株式会社。 『合格トレーニング日商簿記3級』TAC株式会社。						
事前・事後学習	講義で学習した内容をそのつど復習してください。新聞や雑誌などで企業の会計数値（売上高や利益額など）を見て、この企業の経営はうまくいってそうだが、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください（毎日30分以上）。						
成績評価方法	成績評価方法 平常点（授業への積極的な参加、小テスト等）60% 定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	適宜指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。						
担当者から一言	遅刻、私語、スマホ使用などは禁止します。他の学生に迷惑をかけないように心がけてください。 簿記の知識を習得するには連続した学習が必要です。したがって、毎回の出席と復習が重要となります。電卓を毎回用意してください。進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。						

授業科目名	経営管理論	科目コード	482201	授業コード	122802
担当教員	川崎 綾子	科目ナンバリング	PMO4001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。				
授業のねらい	本講義では企業の本質について理解するために、企業の役割や経営者の仕事といった基礎的知識について講義する。実際の企業事例の分析を通して、①経営管理論の用語の本質を理解すること、②企業経営に関する理解を深めることを、本講義のねらいとする。				
到達目標	経営管理論の理論的用語および、企業経営に関する知識を習得し、ビジネスパーソンとしての基礎的な能力を培うことを、目標とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス／単位取得に関する注意事項 第2講 企業の役割とは 第3講 企業システム 第4講 企業の理解／企業情報の収集 第5講 経営者の仕事（1） 第6講 経営者の仕事（2）／所有・経営・統治 第7講 伝統的な管理論／官僚制 第8講 リーダーシップ（1） 第9講 リーダーシップ（2） 第10講 企業と起業 第11講 企業間関係の意義（1） 第12講 経営戦略（1） 第13講 経営戦略（2） 第14講 提携と買収合併 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書はなし。資料を配布する。				
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、経営管理者としての戦略立案練習に取り組むことが望ましい（毎週3時間程度）。				
成績評価方法	中間レポート 50% 最終レポート（レポート試験）50%				
授業内の課題・提出方法	①毎回の出席確認の質問への解答は講義内で提出、 ②中間レポート、③最終レポートはmoodleから提出すること				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義内でコメントする。 ■出席確認の質問への解答 優秀な解答は、講義内で紹介する場合がある。 ■中間レポート 優秀なレポートは、講義内で紹介する場合がある。				
担当者から一言	中間レポートと最終レポートでは院生レベルを要求しますが、講義では1から教えますので安心してください。ただし分量が少なすぎたり、自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは、大幅な減点となります。 If you like studying and are willing to work hard, please take this course.				

授業科目名	会計学総論			科目コード	482401	授業コード	122707
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PMA4001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	会計に関する知識は、経済社会を生き抜いていくためには必要不可欠だといわれています。企業の決算書を見ると、その企業はどのようにして利益をあげているのかを知ることができます。また、その企業が将来に倒産するおそれがどのくらいあるのかといったことも推測することができます。ただし、このようなことを決算書から読み取るには会計の知識が必要となります。したがって、本講義は、会計学の主要な論点を取りあげて解説を行い、会計学の基礎知識を身につけることを目的とします。						
到達目標	まず会計の役割を理解し、資産や負債などに関する会計学の基本的な知識を習得します。そして、それらの知識に基づいて企業の決算書から、その企業の財政状態・経営成績などを読み取ることができるようになることを到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 会計情報の役割 第3講 会計制度と社会（1） 第4講 会計制度と社会（2） 第5講 会計の仕組み（1） 第6講 会計の仕組み（2） 第7講 貸借対照表（1） 第8講 貸借対照表（2） 第9講 在庫の会計 第10講 生産設備の会計 第11講 金融資産の会計 第12講 負債と資本の会計 第13講 損益計算書（1） 第14講 損益計算書（2） 第15講 営業活動の会計 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料は毎回プリントを配布します。 （参考文献） 谷武幸・桜井久勝・北川教典編著『1からの会計（第2版）』中央経済社（2021）。 桜井久勝『会計学入門〈第5版〉』日本経済新聞出版社（2018）。						
事前・事後学習	新聞や雑誌などで企業の会計数値（売上高や利益額など）を見て、この企業の経営はうまくいってそうだと、こちらの企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください（毎日30分以上）。						
成績評価方法	平常点（授業への積極的な参加、小テスト等）60% 小テストは15回の講義中に4回程度行います。 定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	適宜指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。						
担当者から一言	遅刻、私語、スマホ使用などは禁止します。他の学生に迷惑をかけないように心がけてください。 進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。						